

日時：令和6年6月26日（水）10:00～12:00

場所：平館高等学校 研修ホール

出席者：16名

- ・委員10名（3名欠席）
坂本 讓、工藤昌雄、佐藤 晃、鈴木絵美、瀬川恵子、高宮征宏、田中耕一
宮野千栄、吉田裕香、高橋順子
- ・オブザーバー参加2名
工藤 剛（岩手県議会議員）、山根 章広（高橋茂委員の代理）
- ・千葉 賢 校長、佐藤真由美 事務長
- ・事務局 牛崎芳恵（副校長）、石川千枝（総務主任）

- 1 辞令交付
- 2 校長あいさつ
- 3 家庭クラブ発表（家庭クラブ代表生徒6名）
「紫紺染について」宮澤賢治
（ペープサート）
- 4 委員自己紹介
- 5 協議・報告等事項
 - (1) 令和6年度平館高等学校学校運営協議会委員について
 - ・会長 吉田 裕香 氏
 - 副会長 田中 耕一 氏
 - (2) 平館高等学校学校運営協議会の基本方針について（案）
 - ・資料のとおり承認された
 - (3) 令和6年度学校運営協議会年間計画について（案）
 - ・資料のとおり承認された
 - (4) 令和6年度学校運営の基本方針について
 - ・学校運営計画、魅力化ビジョン、地域みらい留学について校長から報告

- ・質問ではないが、意見を少し。

前の会議に出席させていただいた際に、県外留学のことが話題になって、平高としても対応しなければならないのではないかとということで資料を持ってきた。今回こういう形で東京に行ってもらふことや、平高のホームページでも家政科学科について発信をしてくれているのでいいなと思っている。

令和6年度は13都道府県から32名志願をしてくれている。令和5年度は15都道府県から25名志願してくれている。日報に県外留学のことがたくさん取り上げられている。例えば大迫や西和賀が取り上げられていた。西和賀は3年目にして初めて入学者がでた。共通しているのは、市町村、地域、学校がタイアップして一生懸命やっている。成果がでてきて1名、2名入学してくているという状況。今年の平館高校の入学生は25名ということでどんどん近づいている形。少子化ということで1名でも多く平高に入ってもらふための発信が必要。3者をどうやってタイアップして進めていくのかが重要になっている。八幡平市の補助は、他校（他市町村）と違い多い。県から示されている基準宿泊費補助の上限4万円をしっかりと補助しているのは八幡平市だけ。住田高校は、新聞に載っていたが交通費の2/3の補助しかしていない。宿泊の補助はない。なのに入学しているのはどこがちがうのか。なぜか。あそこは、高校生がいきいきとはばたいていけるようにというのをやって三者で話し合って、住田町として会議を行って高校生がどうやって生き生き生活するのかということ、コーディネーターをつけてやっている成果が出てきてい

る。きちんと話し合っ、今回入学する事になっている。西和賀も連絡協議会を作って一生懸命やって3年目でようやく入学者がでたということです。大槌町は、2019年から14名の在籍、はま留学で特色を出している。葛巻はみなさん御存知のこと。どこもみなさん三者で工夫して苦労して行っている。大迫については、花巻市のホームページに大迫高校へ入学を呼びかけているのがわかる。花巻市として大迫高校を応援しているのがわかる。残念ながら八幡平市はそういうのがない。八幡平市のホームページにも平高を応援する形を出していただきたい。住田町は、この高校生がいきいきはばたけるような町づくりになっている。花巻市は、ちゃんと写真が掲載されていて、こういうところに泊めますよ、こういう食事ができますよ、こういう学校ですよ、こういう景色のところですよというようにわかるようにしている。発信していかないと、どこの学校も少子化で少なくなっていくのだから、平高としての特徴をどうやって出していくのか、八幡平市と一緒にどうやって入学者を増やしていくのか、分かれ道になる。

残念ながら本日商工会議所の方がいらしていないが、平高と行政と地域の方と早くしないとだめ、三者で力をあわせなくては。一人でも多く入学してもらうために苦労しなくてはならない。成功している市町村を見て、やり方を学んでこないとだめだ。成功例を盗んでくる。八幡平市の方で中心になり予算化して学校関係者や地域の方を派遣して勉強させるなどやってみなければ。会議だけやってもなかなか前に進まない。実際に行動することが必要。

前回発言したこともあり、責任がある。今回、話をしようと思った。千葉校長より東京へ行ってやってすすめてくるということのを伺い、いい方向に前向きにいつているということがわかりうれしく思う。八幡平市にもいろいろとやっていただいたり、地域の人にも平高を残すためにどういう協力ができるのかということ具体的に話していくことが必要。少子化は激しい。八幡平市から二戸や盛岡に出る学生がいる。ますます大変になる。いつか県の基準に引っかかる時が来てしまう可能性あり。どこか止めなければならない。背水の陣で後ろがないと思ってやっていかなければならない。八幡平市さんや教育委員会の人、地域の方には是非お願いしたい。厳しい意見ばかりで申し訳ない。

(工藤委員)

- ・昨年度3回目出られなかった。

全国高校 CN 研修会に参加している。対面研修では事例校に実際に行ってみることをしている。実際に行ってみている。オンライン研修ではカリマネや探究学習や魅力ある授業などどんどん変えていつている学校もある。カリキュラムを中身を変えるのは大変。既存のもの、既存の良さを打ち出す、ニューズ化することが大切。平館高校にはコーディネーターの立ち位置がない。県では高校でCNを配置しろというが、費用が確保されていない。全国高校 CN 研修へは県教委、市町村教委、高校 CN、管理職、担当者が参加する。頑張っているところは、県教委と市教委と学校がきている。情報をとってきたい。そして事例をここにヒットさせたいと思っている。県の役割、市の役割を聞いている。どんな魅力があるのか、

親の視点から良さ、だめな部分を掘り出している学校もある。生徒本人がどう思っているのかということと比較的前向きでいい。先生方の業務に被さると負担が大きいのCNが伴走している。CNという立ち位置の人がいて、つないでいける人の存在が平高にも必要。

今年度も8月から桜美林大学で研修が始まる。内容を校長先生にもお伝えしながら、こういう場でみなさんにもお伝えしながら今後も前向きに進めていくのがいいと思っている。

東京に行くのも、研修会に参加する学校は、学校の魅力化や、地域みらい留学をやっている学校であり、やってみてどうでしたかというような情報を収集してきたい。県外からの留学生については、生活の基盤がないのは大変。おいでおいでといっても箱がなければなんともならない。小さくてもいいから作ってもらいたい。何十人もくるわけではないから、小さくてもいいからなんとか建ててもらったというところもある。県外へ出すのなら生活の基盤がきちんとしているかどうかは親としても非常に不安である。アパート4万円、急には変えられないが、すこしずつ課題として変えていかなければならない。保護者の意見、生徒の意見、先生の意見、中学生が興味を持つ形で結んでいけることにしなければならない。行政から移住定住の担当が行くと思われるがそこで何を伝えてくれるのか、準備がしっかりできていないと難しいだろうなと思って去年、今年と臨んでいる。市の予算をつけてもらったようだが、これは1年では結果が出てこないと思われる。継続していけるよう、県と市と行政と地域とタイアップしていけるようにしなければならない。

(鈴木委員)

- ・西和賀高校の話。北上西和賀線の線路の存続兼ねている、西和賀高校の生徒確保としても少しずつ増やしていくことをつい先日、県の商工会女性部研修会の話聞いたところである。線路の状況や学校の状況が八幡平市とまさに同じ状況であり、本当にみんなで考えていかなければならないところである。平舘高校の生徒だけ、保護者だけ、先生だけでなくもっと、先生方ももっと地域に発信してほしい。昨年度、結局1年間まったが何もない状況だった。しびれを切らしてなにかできることはないかと女性部で聞いたが、今はないということだった。しかしそういうことではなく、何かいろいろな団体が絡まっているので、できることとか話をしていろいろな意見をとれるところがあると思う。もう少し決まり切った委員会だけではなく、地域にはめ込んでいって学校として話を聞いていくことが重要。

西和賀も女性部が絡まって地産地消のお弁当作りをしていた。そうしたら作るだけではつまらない。売ってみようということも行った。保健所との絡みもあり難しいのかもしれないけれど、やってみる、やるからにはどのような活動をしなればならないか。言葉でだけ話をするだけでは印象に残りにくく、響かない。実際にやってる活動は、映像にも残るし、情報として発信していくこともできる。

平高のインスタはやっているが、なかなか更新されない。発信されていない。先生だけでは大変、なので子供たちも引き込んで発信をやっていくのもあるのではないか。

(地域みらいに関しては) せっかくのきっかけ、機会。今から始まる、平高ではこういう学習ができる、こういう風土があり、こういうことができる、住む場所もきちんとあるよ、今からでもすぐに入学できるということがしっかりとできている状態で行かなければならない。カリキュラムがしっかりと調っている、すぐに住める、使える状況でアピールする必要がある。しかし今月末、今週末のことなので、どれだけできているのかわからないが、もう少し早くこの会議が行われればよかったのかと思う。

きっかけがあるから行ってくる、行ってきて終わりではない。みんな頑張ったねで終わってはいけない。きっかけがあるから頑張れる。きっかけだけで終わらせない。きっかけにして、すぐにうごける体制を調っていなければならぬという収穫にしてほしい。

(宮野委員)

- ・宮野委員さんの話を聞いて思った。インスタが今、一番発信力があるもの。

ソフト面であったり技術的な指導であったりといったところは、こちらでできること。興味のある生徒がいれば、動画編集であったり、デザインについて指導可能である。今 SNS で発信することはビジネスではよくあること絶対不可欠になっている。そういう指導は私ができる。可能であれば取り組んで見たい生徒がいるのであればプロとして私がアドバイスや助言など指導することもできる。実際の仕事につなげていくことも手伝うことができる。

(吉田委員)

- ・同窓生の立場で参加している。同窓生 13000 人近くいる。同窓会でも生徒数減については話題になるが、具体的に同窓会に何かしてほしいというような要望がない状況である。同窓会をもっとつかっていい。全国にいる同窓生を使えばある程度平館高校の PR にもつながるのではないかな。東京支部は活発な活動をしている。

様々な学校を見ているが環境として、平館高校が一番よいと思われる。国立公園を持っていて、岩手山、八幡平、日本 100 名山を二つも持っている学校はない。岩手山の湧き水もバナジウム天然水であり、この水を水道に使っているマチの良さ、ものすごい魅力。これを PR してください。世の中にはそういうのが好きな人もいる。

他県から来た時の泊まる時の対応として空き家も活用できるのでは。市役所でも空き家については情報を把握していると思う。活用できるように市と話し合っておくのもいいのではないかな。

(田中委員)

- ・みなさんご意見たくさんありがとうございます。今田中さんからお話のあった同窓会ですが、今度東京同窓会に参加し、そこで、ぜひお孫さんを入学させてくださいとお願いしてこようと思います。

SNS の発信ということについて開設はしているがなかなか活用法に難しいところがある。SNS の活用そのものや生徒の活用そのものについて指導が必要であり、勇気がない。なかなか SNS を企業のように情報発信に活用できない現状もある。情報リテラシー教育とあわせて考えていきたい。

八幡平市の魅力、地域みらいに手を上げたのは、八幡平市の地域資源の豊かさ、これを生かしたいと感じたから。生徒数減少のこともあったが、それ以上にこの八幡平市について多くの人に知ってもらいたいと思ったから。強く思っている。交流人口を増やし、定住につなげたい。生徒をなんとかこちらにも引っ張ってきたいと考えている。住む場所の問題について。市の方にもずっとお願いしている。なかなか下宿は難しい。そもそも商売として下宿をしている人がまずいない状況。紫薫館改造してはどうかという話もあるが、それにしても管理者が不在では難しい状況。企画財政課でも来年度はとりあえずアパートで対応し、生活サポーター的な存在の方を配置できるようにしたいと考えている。具体的に進めるところが難しいところもあるが、市と協同して進めて行ければと思っています。

今後もさまざまなアイデア等いただきたいと思う。

(千葉校長)

- ・教育委員会の代表として参加している。この場で出た意見等については、企画財政課、地域みらい留学担当課へ伝え、共有していきたいと思う。

(坂本委員)

- ・様々お話をお聞きしそのとおりで感じる。

中学校・保護者の立場から県外へ出すことがかなりリスクはある。どうしてもここでなければならぬ理由がなければ踏ん切りがつかない。可能であれば

ば、県外留学を決定し、実際に留学している子たちになにがきっかけになったのかという情報を提示することも必要ではないか。経緯についての情報が一番必要なのではないか。どういうふうに人を集めるかはこの次の議題となってくるのではないだろうか。（高橋委員代理：西根副校長）

- ・八幡平市の企業懇談会関係で来ているが、西根ライオンズクラブの会長も務めている。ライオンズクラブは地域の奉仕活動も行っている。ライオンズクラブは各企業のオーナーが私財を投じたり、資金を集めて運営している。その中に青少年の健全育成というのがある。平館高校から今年はまだ要請がないが、薬物乱用の防止講座を実施している。警察OBと薬剤師とタイアップして講演会、派遣事業を行っている。警察はSNSや防犯、詐欺などの注意喚起という役割を果たしている。小学校ではスポーツ大会（ライオンズカップ）など行っている。
薬物乱用の防止講座の機会、派遣依頼を通じて、相談してもらうことで、青少年の健全育成につながる部分での相談に応じることができるかもしれない。宮野委員がいろんな団体と協力してやった方がいいと言っていたが、その一つとして頭に入れておいてほしい。（佐藤委員）

(5) 令和6年度教育振興会事業計画・予算書について

- ・副校長より報告
- ・質問意見特になし

(6) 平館高等学校の状況 H27～R6 について

- ・副校長より報告
- ・質問意見特になし

(7) 令和5年度平館高等学校外部講師等実績一覧

- ・副校長より報告
- ・質問意見特になし

(8) その他

- ・市内中学校からの入学者の割合、このようになっている。教育委員会としては、広報はちまんたいに「平高通信」を掲載しているこれを、市内の4中学校及び近隣の中学校（3年生向けに）ダイジェスト版を作成配付の予定。180部あるので、OBOGの卒業生声を掲載しているので、活用してほしい。（坂本委員）

- ・補足させてもらいたい。広報はちまんたいに「平高通信」として毎月1ページ掲載させてもらっている。学校の様子や生徒の紹介を載せている。7月号は相撲部の生徒の活躍について掲載する予定。平高を代表するもの、魅力のところ、アピールできるところ強みを紹介している。市内からの卒業生の減少を受け、教育長様からの後押しもあり市の広報担当の方で作成していただき、昨日納品されている。この後行われる中学校での高校説明会に持参・配付し活用していく予定である。（牛崎）

6 その他

<各委員より>

- ・初参加、委員の方からのご意見をちょうだいした。市として企画財政課等とも共有、周知していきたい。（坂本委員）

- ・各学年70～80名の在籍、昨年度は8名が平高へ進学した。

市教委からは学力向上と指導いただいている。点数がとれると盛岡一、三へ進学していく。なかなかここに残りなさいとはいえない状況。個人的には地元

の学校へ進学するのが一番いいと思う。八幡平市の良さ、通学時間や費用の面からもいいのであるが、魅力について伝えていただければ我々の方からも発信できる。

(高橋委員代理：西根中副校長)

- 地元から入ってこないということを見れば学校の魅力化、保護者の意識の変革をしないといくら外から連れてきたとしても地元が入らないと存続できない。学校としてそこをどうするのか。地域みらい留学のまえに取り組まなければならないところではないか。15.4%は充足率としてちょっと普通ではない。背水の陣でなんとかしなければならぬ。今までいろいろと意見はでても実際に行動してみないと、課題をクリアしないとだめである。失敗した時のことばかり考えて、行動しないことが多い。実際に行動して壁があったら乗り越える方法を考えなければならぬ。みなで知恵を出し協力し合わなければ状況は打破できない。

住田高校で副校長をしていたとき統廃合の対象に。カリキュラムを変え、高田、大船渡遠野から生徒が来るようになった。町の協力、行政の協力、地域の方の協力で課題をクリアしてきた。知恵を出し合い、課題をクリアし平高が残るような形で頑張っていたいただきたいものだ。

(工藤委員)

佐藤

- 委員を務めて長い。中学生に選ばれる平高としてやっていかなければならない。授業の内容の問題なのか、カリキュラムの問題なのか、普通高校なのか実業高校なのかあると思うが、そういうところまでやっていかなければ選ばれない高校になる。現状は見えている。もう一つ深く掘り進んでいかなければならない。授業以外の課外活動、部活についてもみなさんと議論していきたいところである。
- PTA 目線、CN 総探に関わっているという目線で生徒の伴走や先生のやりたいことを聞きながら取り入れることをしたい。中学校に選んでもらうということは、中学生に選んでもらう平高に対しての保護者の意識、地域の意識、いろいろなイメージがあり、中学校がいえないところを我々親や地域の人が伝えていく。絶対数が少ない中で、進路達成率が 100、進学率 60%、就職 40%と高い。1 年間の離職率が低い、ほぼない状況。そのようなところ魅力化として、PR していくとよい。進学、就職に対して生徒が何を求めているのか、それは保護者の意思が強く左右反映されてくるので、いろいろなどころから聞きながらできるところで、市民として保護者として学校に関わる人としてやっていきたい。
- このような素晴らしい人材が市内にいたとただただ驚きながら話を聞いていた。今年度の入学者が 25 人ということは知っており、少なくなったという印象は受けていた。うちの子供たちは盛岡にでてしまった。部活が決め手だった。人が少ないと部活ができない、少ないから部活ができない、できないから人が少なくなるという悪循環になる。市内にこんなにたくさんの方がいるのなら、その力を活用し、まとめていくことが学校には求められているし、私たちも力を貸すことはできる。そういうところでうまくやっていくことができればと思っている。
- 地域みらい留学の取組いい事業だと思う。介護現場でも外国人労働者が入ってきている。盛岡の介護事業所では住むところが課題になっている。企業がやっていること、住むところについては、行政・

(佐藤委員)

(瀬川委員)

地域が関わるがネットワークというところでは広がるのに時間がかかる、労力がかかるところだが協力していきたい。
平高の魅力を伝えていくこと。短時間で成果が現れるところなども一緒に考えていきたい。
(高宮委員)

- 特色、魅力はどんどん発信してほしい。
些細なことでも発信してほしい。例えば資格についてもである。様々な資格が取れるということがわかり驚いた記憶がある。行事、修学旅行、遠足案外子供たちは気にしているから発信してほしい。
自分の高校時代、先生方の趣味の授業ということがあった。今日は、何時から1時間校長の授業というのがあった。地域にも宣伝したことから多くの人 came。そういうここだったらできることを考えてみてほしい。
(田中委員)
- 娘も部活が進学の決め手。
校長先生 SNS は大事。映像も音楽も載せられる。子供の活動を目の当たりにできる。
配信ができることも大きな魅力。個人情報保護いろいろある。勇気をもって取り組んでほしい。佐藤委員さんをはじめ、この人間以外にもたくさんの人がある八幡平、高校から声をかけて必要な部分を手伝ってもらえるように、一つずつ一人ずつふやしていけると思う。
(宮野委員)
- 様々なアイデアがでてきた。
もし可能なら時間のある学生を集め、YouTubeチャンネル作りましょう。インスタをやりたい。ただなんだからやりましょう。ただなのになんでやらないのという気がします。手が空いているひとが手分けしてやればいだけ。見せ方、同じ画像、素材も編集によって様々変わる。テクニカルな部分は指導できる。
趣味の授業もすごく面白い企画である。
継続して地域を巻き込めば生徒にとってもいい経験となる。実際に次には仕事にもつながる。お金がないのであれば、予算をつくるための時間を作る。クラウドファンディングについて知る、生徒にやらせる、やり方を教える。卒業後にも生きるスキル。お金がないと待っているだけではない。お金の作り方を教えるべき。魚を待っている与えるのではなく釣り方を学ぶことが必要。
前に進み始めている感覚があるので、行ってきまして終わるのではなく、どういう風に始めるか、ゴールを決めてどこからはじめられるか、どういう風にスケジューリングしていけばよいか生徒が主体的に動いていけるかを考えるためにも、活発な意見を出し合って行ければいいと思う。
(吉田委員)
- 圧倒された。委員の皆様いろいろと考えてくれている。学校とPTAとでこの意見を今後話し合いをしながら学校と協力していきたい。
(高橋委員)
- いろいろな立場で、いろいろな情報、人脈の中で話し合いながら平高をなんとかしていこうというもの。前向きで充実している。
宮野さんのいうとおり、会議して終わりではなく、生かしていきたい。
次回も呼んでいただきたい。
(オブザーバー参加：工藤県議会議員)
- できない理由を探してしまった。取組についてYouTubeなどすぐにでも取り組める気がする。市のスパルタキャンプの高校生版みたいなものの相談もあった。情報活用、情報発信の技術はこの先も必要なスキル。生徒と共にやっ

ていきたい。

部活動は生徒が選ぶ大きな要素。私立学校との戦いである。それにも勝る、入学してもらう魅力をPRしたい。

地域みらいは市内の生徒へのカンフル剤、刺激になればとも考えている。会議以外でもご意見いただければありがたい。
(千葉校長)

7 その他

校長より、お礼の挨拶